研究テーマ： 広島県の英学史資源を活用した英語教育方法の改善	
研究代表者（職氏名）： 准教授 馬本 勉	所属：生命環境学部生命科学科
共同研究者（職氏名）：	

研究の目的

（1）広島県の英学史資源[1)]を収集し、データベースを作成すること

（2）資料の分析を通じて、現代の英語教育改善に資すること

（注 1）ここで言う「英学史資源」とは、幕末期より英語を通じて行われてきた西洋文化や学問の研究（＝英学）の歴史を今に伝える資料全般を指す。本研究においては、特に英語学習に関わる資料の収集に努めている。

研究成果の概要（２年計画の１年目）

（1）明治期以降の広島県にゆかりの英学史資料を収集し、画像やテキストによるデジタルデータ化を行った。

①森修一（庄原出身）による英語独習書『ニューナショナルリーダー独案内』の一部デジタル化、および関連独習書のデータベース作成

②広島中学校（現国泰寺高校）編纂による語彙集『英語之基礎』の基本語データベースの作成

③広島高等師範学校附属中学校における教案下書き（口和町で発見）のデジタル化

④岡田實麿（上下町出身、一高教授）編纂による教科書のコーパス作成

（2）上記の資料の分析を通じて当時の英語教育のあり方について検討を行うとともに、これまでの英学史、英語教育史研究では言及されてこなかった点を「仮説」として発表した。

・明治期の独習書「独案内」から、文法訳読式による教授法の様子がうかがえる。従来、学習者用の「虎の巻」と見られていたが、教師用の「指導マニュアル」としても使用された可能性がある。[←(1)の①]

・広島で大正期に発表された語彙集『英語之基礎』は、英語教科書を素材とした語彙選定としては「世界初」の可能性がある。[←(1)の②]

（3）明治期、大正期に用いられた英語教授法・学習法は、現代の英語教育に十分応用が可能であることを指摘。本学における共通教育英語科目の授業や公開講座において広く紹介に努めている。

・聞き取った英語を書き取る「ディクテーション」[←(1)の③]

・英文を訳した和文を英訳し、原文を再生する「復文法」[←(1)の③④]

（4）以上の成果は、本テーマにかかわる研究基盤として構築したウェブサイト上に公開している。ウェブ公開に当っては、検索システムを導入するとともに、各項目を記述した本文中にサイト内外へのリンクを張り巡らせている。

「広島県の英学史」情報検索サイト　http://tom.edisc.jp/hiroshima/

今後の課題

英学史資源から得られた今日的示唆をもとに、先端技術を用いた学習法（例えば、デジタルコンテンツ化による CALL システムへの導入や、ウェブ上で学習できる仕組み）を確立する。

最終目標は、本学の英語教育、また日本の英語教育にとって、より良いカリキュラムやシラバスを提案することである。